ア、福祉施設での体験活動など学内外で様々な活動をしてきました。それらの経験に加え、BSL をする立場になって、医師になってからの医師同士あるいは関連職種との人間関係にますます興味を持つようになりました。今回このセミナーに参加させていただき、社会医学の専門の皆様ならび医学生と交流することによって、社会医学についての理解を深めたいと考え、応募させていただきました。(5 年生)

私は将来単に病院に勤める臨床医というのではなく、社会全体を視野に入れて社会に対してアウトプットできる医師を目指しています。今回の社会医学セミナーで社会医学という分野の全体像とその役割、どのような広がりを持っているかを知るとともに、実際にそこに関わる専門家の方々の話を聞き仕事のイメージを掴み、社会医学が何を出来るかを考える機会になると思い、応募いたしました。(5 年生)

医学科学生として3年目を迎え、大学の講義で病気に至るまでの過程について学んだことや、大学内で百日咳の感染拡大を予防するための取り組みを見て、改めて公衆衛生の重要性について考えさせられたことがサマーセミナーに応募した理由です。将来医療従事者として働く際、病気の治療はもちろん重要ですが、それ以前に感染症などの病気にならないように予防することも治療と同じく重要な医療行為であると考え、社会医学についてより詳しく知りたいと思い応募させていただきました。(3 年生)

私たちは昨年入学後、「生命倫理研究会」を設立し、昨年は産婦人科医の医師不足問題やハンセン氏病問題をとりあげて、医療と政策に関する勉強を続けて参りました。昨年夏には、厚生労働省の医系技官採用セミナーに初学年であるにもかかわらず参加させていただき、医政局や医師不足対策室の技官の方々から、医療政策の現場の意見を聞かせていただきました。医学部の勉強の合間を縫って、医療経済、医療政策などについて今後も勉強して行きたいと考えております。

社会医学セミナーにて、医学と社会を架橋してさまざまな意見交換ができればと思い、申し込ませていただきました。よろしくお願い申し上げます。(2 年生)

私は現在、基礎医学を学んでおります。日本の医療を取り巻く環境を、臨床付けになる前の学生時代に理解しておきたいと考え、昨年度から、医師不足問題、医療経済について公衆衛生学教室の先生方、厚生労働省医系技官の方々のご指導の下、有志を募って勉強会を重ねてまいりました。しかし、普段の大学生活では、勉強も医学一辺倒になりがちで医学と社会とのつながりを実感する機会が少ないのが現状です。

他大学の学生と活発に意見交換を行い、社会医学に対する知見を広げたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。(2 年生)

昨年も社会医学サマーセミナーに参加させていただき、非常に有意義な時間を過ごさせていただきました。昨年からの一年間で医学の知識も増え、それをふまえて今年も社会医学の専門家や医系技官のお話をきかせていただきたいと思います。講演を聴き、議論に参加することで社会医学に関するさらなる理解を深めたいと考えております。(2 年生)

昨年社会医学セミナーに参加させていただき、非常に刺激を受け、また参加したいと思っていました。現在は初期研修医です。将来の方向として公衆衛生に関わる仕事を考えているので、今年も参加させていただきたいです。よろしくお願いします。(初期研修医)

社会医学における予防医学は需要な役割を占めています。私は、医動物の講義を受ける中で予防医学の大切さの理解をふかめました。メタボ検診のように、最近の予防医学は、注目を集めていて、私は、こうしたことが国民的な規模で取り組まれはじめていることに大変期待しています。予防医学の考え方が広まっている中で、第一線の専門家から学べる今回のセミナーに是非参加したいです。この体験が必ずや、医師となってからの大いなる糧となりえると考えています。(3 年生)

私は昨年奈良で行われた社会医学サマーセミナーにも参加しました。昨年の夏の段階ではまだ大学で社会医学の講義を受けておりませんでしたが、先生方の分かりやすいご講義で、社会医学とはどういうものなのかを学ぶことができました。また、全国の医学生との交流も大変貴重な経験となり、良い刺激を受けました。今年もぜひ参加して、有意義な夏休みにしたいと思っています。(5 年生)

卒後は家庭医療分野での活動を考えています。そのうえで予防的な考えと研究が重要であると考えていますが、現在のところ社会医学分野に関する授業等がなく、今回のセミナーへの参加をこれからの積極的な情報収集への第一歩にしたいと考えています。また、今回のセミナーでは様々な先生や厚生労働省技官の方の講演をお聴きする事ができるという点、参加者での討論等盛りだくさんな内容に非常に魅力を感じています。是非とも参加の許可を願います。どうぞよろしくお願いします。(3 年生)

高校1年生の夏休みに、ガーナの学生と交流する機会がありました。私が英語を話せなかったためあまり会話はできませんでしたが、彼らはチョコレートや、家庭料理によく使われるという塩辛い、味噌のような食べ物をくれました。

日本と異なる文化はとても面白く、世界に伝えたいと感じました。そのために私ができることは何かと思ったとき、医師なら何か手助けできるのではないかと考えました。しかし、まだ具体的に何ができるかよく分かりません。社会医学サマーセミナーで何かヒントが得られるのではないかと考え、応募しました。(1 年生)

大学生活も半ばを過ぎ、大学卒業後に自分が一社会人として果たすべき役割とは何かを考えるようになりました。医療と社会のインターフェイスである社会医学こそ、自分の役割を社会の中に位置づけ存在意義を示してくれるものだと思います。今後自分がどのような職に就くことになるにせよ、医療に関わる以上は社会医学の視点は常に必要であると感じています。様々な社会問題を解決するべく第一線で働いている方の講義や、同じように社会医学に興味を抱いている他大学の学生との交流は、またとない貴重な機会であり非常に楽しみにしています。今回のセミナーを通して、自分自身の将来に向け高いモチベーションをつくるためのきっかけを作りたいと考えています。(4 年生)

昨年のサマーセミナーに参加させていただき、社会医学のものの見方や考え方に触れて感銘を受けました。また社会医学に関わる先生方や社会医学に興味を持った他大学の学生と話せたことは大変刺激となり、自分の将来についても考えることができました。とても楽しく充実した3日間でした。

社会医学についてもっと学びたいと思い、今年のセミナーにも申し込みをさせていただきました。よろしくお願いします。

私が今回サマーセミナーに参加した理由は個人で患者さんに向き合うだけでなく、社会という広い視野での考え方や知識を見に付けたいからです。もともと、予防医学には興味があり、そういう観点からも社会医学には興

味があります。ただ、大学ではまだ社会医学を学んでないのでしっかりとした知識はまだ何ももっておりません。しかし、このセミナーを通して色々な人と触れ合い、色々な価値観を学び、吸収して将来の医師像を形作っていきたいです。(4 年生)

四回生の時に公衆衛生を二週間学びましたが、そのときはあまり社会医学が臨床とどういったつながりがあるのかということについて深く考えていませんでした。五・六回生とクリニカルクラークシップでいろんな科をまわり、四回生のころにはわからなかった社会医学とのつながりや重要性が少しわかりはじめ、今回学生生活最後の夏休みという機会を利用し、さらに理解と興味を深めたいと思い応募させていただきました。よろしくお願いいたします。(6 年生)

医師国家試験及びマッチングの目前ではあるが、医学生の進路として医師にしかなれないのではなく、医系技官を始め沢山の道があることを知り、自分の将来に幅を持たせたいと思ったから。また、自分と同じように自身の将来にさまざまな考え方をもっているであろう学生達や現在医師以外の仕事をしている方々と実際に話をしてみて自分の考え方、知識を深めたいと思ったから。(6 年生)

社会医学セミナーというものがあると先日友人から誘いを受けました。医学生でありながら「社会医学」と聞いて、これといった具体的なイメージを持つことができず参加を戸惑っていたのですが、社会医学専門の先生や厚生労働省医系技官の方がその役割などについて講演してくださるとうことで
申し込ませて頂くことにしました。内容を理解し、意見を述べることができるか心配ですが、このセミナーを通して臨床前に日本の医療の現状を社会医学の面から少しでも考えることができればと思います。(4 年生)

3年次に公衆衛生学教室に半年間配属し、そこで公衆衛生学、疫学などの講義を受け、社会医学に非常に興味を持ちました。疫学を中心に学び、4年生となった現在でもその時から行っているコホート研究の論文を作成中です。また将来の進路の選択肢として、医系技官を考えております。厚生労働省などで、現在の医療システムが抱える問題点の解決を図るべく、自分が尽力することができれば良いと思っています。なので、同じような志を持っている方々、また、実際に現場で活躍なさっている方々とぜひお会いしたいと思います。(4 年生)

大学入学当初から社会医学に関心を持ち始め、2 年次より本大学公衆衛生分野の教授の下で抄読会や疫学の研究に参加させていただいております。過去 2 回社会医学サマーセミナーにも参加しており、そこで得られた経験は非常に大きなもので私を成長させてくれました。昨年は日程の都合が合わず参加できませんでしたが、本年も是非とも参加し、社会医学の専門家である先生方や私と同じ学生の皆様にお会いしたく申し込みいたしました。(5 年生)

私が今回社会医学サマーセミナーに応募させていただいたのは、健康および疾病と社会的要因との関係に興味があるからです。職業や地域社会、経済条件の違いから生じるその各人のかかりやすい疾病を調査研究することにより、各人に最適な医療体制を確立することができるのではないかと考えます。そのような体制を整えることは、その地域の医師にとっては医療の提供の在り方がある程度明確化することとなり、地方の医師不足の解決策の一つになりうるとも思います。また、サマーセミナーを通じ、全国の医学生との交流を持っていきたいです。よろしくお願いします。(1 年生)

大学の掲示板でこのセミナーを知りました。私はこの夏に、フィリピンで日本住血吸虫の撲滅に取り組むプログラムに参加します。大学3年になり寄生虫学の講義が始まり興味がわいていく中で、各地域に根ざした医療や環境づくりが大切であることを知りました。また、山梨県は以前、日本住血吸虫の流行地であったことも知り、今回の社会医学セミナーは山梨県で行われるということで絶好の機会だと思いました。自らの足を運んで、フィリピンと山梨県の日本住血吸虫撲滅への工夫を見てみたいです。社会医学についてはまだあまり知識はありませんが、このセミナーが社会医学を学ぶきっかけになれば、と思っています。(3 年生)

学校の授業でお話を聞いてから、社会医学という分野に興味がありました。
低学年の際には、研究室の基礎配属にても社会医学講座にお世話になり学問的な面白さも感じています。そのため、このような機会に同じく興味関心を持っている方々の考え方に触れ、意見を交換したり、諸先輩方のお話を伺ったりしたいと思い応募しました。大学院に進む際の選択肢としても考えていますので、その参考にもなったらと思います。(6 年生)

入学当初から社会医学や公衆衛生に興味があったのですが、授業以外で特に社会医学について勉強できる機会が持てませんでした。今年は山梨県での開催であり、自分も4年として疾患について多少理解ができていると思い、応募に踏み切りました。今回初参加でまったく知識がない状態でご迷惑をかけると思いますが、よろしくお願いします。(4 年生)

私は現在大学院で公衆衛生の研究を行っています。今回のセミナーではすでに様々な現場で実際社会医学系の仕事をされている講師の方々から幅広く、社会医学の新たな側面を教えていただくことのできる、また日頃のデスク中心の生活から少しはなれ同じ目標を持った仲間と共に社会医学について思う存分に語り合う絶好の機会であると思い応募いたしました。(大学院生)

学部では精神病理を中心に勉強していましたが、完治の難しさや入退院を繰り返す患者さんの状況を目の当たりにして予防医学・社会医学に興味を持つようになりました。そのときの疑問をスタートに、大学院で医学・社会・心理・経済・政治・文化と様々な観点から疾病の発生状況を勉強してきましたが、私とは違うバックグラウンドや経験を持った他の学生や研究者、そして実務者の方達と討議し、刺激を受ける中であらためて社会医学の役割や今後の方向性を考えたいと思い応募致しました。(大学院生)

社会医学セミナーに参加したい理由は、昔から社会医学というものに興味を持っていたからである。今回この社会医学セミナーに参加することで、今まで知らなかったことを学んだり、同じ社会医学に興味を持っている人とたちと情報交換や今後の抱負を語り合うことで、これからの学業や社会貢献につながるきっかけが得られると考えている。また、社会医学という分野は多岐にわたるので、これから求められる社会医学の世界を知ることができると考えている。(大学院生)

3 年生の時に医学には「治療」の前に「予防」があることを学びました。これから、医師になる訳ですが、僕は臨床だけでなく、なにか研究のほうにも携わりたいと考えています。そこで、働く時に「やってくる患者」だけを相手にするのではなく、いったいどんな人たちが同じ疾患で苦しんでいるのか、どんな地域でよく見られるのか、そんな大きな視点が、それぞれの疾患を理解、解決していくためには非常に重要だと感じました。そこで今回、参加を希望しました。(4 年生)

病気になって病院に来る『個人』ではなく、特定の方法で定義した『集団』の健康維持・増進やQOLの向上を目指しているという点で、社会医学は非常に魅力的な学問だと考えています。私は将来臨床医として働きたいと考えておりますが、臨床の現場においても統計や疫学の考え方を大事にしていきたいと考えており、今回のセミナーでは、それらを中心に社会医学的な考え方やアプローチの仕方を学んでいきたいと考えております。よろしくお願いします。(6年生)

実際に社会医学が関われることを詳しくは知らないのですが、最近、医療統計について勉強する機会があり、これはチャンスなのかなと思っていました。部活の先輩である先生が世話人をされているということもあり、お話を聞いて参加に踏み切りました。医学の可能性など知見を広げられそうなセミナーに貪欲に参加したいと思います。学年相応の学力があるかは不安ですが、がんばります。宜しくお願い致します。(5年生)

私の参加動機は、領域架橋における社会医学の役割を学ぶことで、私の専門である地域保健の役割を考えることである。多分野との相互関係が不可欠な社会医学の役割を学ぶことは、同時に相互関係の相手先である様々な職種の役割を考察することでもある。また、各分野における社会医学の役割について、一度に学べる機会はあまりない。これは、コーディネーターとしての役割を担う保健師においても、貴重かつ重要な機会であると考える。(大学院生)

学生時代から漠然と公衆衛生に興味を抱いていましたが、研修医になってその気持ちが強くなり、臨床だけでは変えられない分野へ自分で何か出来ることはないかと模索しております。セミナーの存在を知って是非参加させていただきたいと思いました。臨床研修中、表には出てこないもののいざ患者とその家族の今後を考える時には絶対に必要となる社会医学について、勉強していきたいです。(初期研修医)

セミナーを終えて－参加学生の感想－(順不同・匿名)

「社会医学と自分」といった抽象的な問題意識を持って参加した社会医学セミナーだったのだが、今回学んだことの多くは「これからの自分と社会医学」という面が強かった。

「今までの自分と社会医学」では、自分の知らぬ間に社会医学の恩恵を受けていたということで、「今の自分と社会医学」は、医学生として、社会医学の授業を受講し、少しではあるが社会医学の知識がある自分。

そして、今回の社会医学セミナーはお互いが持っている考えを、交換合う、ある意味では実践の場だったといえる。そこで、得た知識や、考え方の違い、大学によってのある種の文化の違いのようなものあり、とても、勉強になった。(6 年生)

今回ディスカッションしたテーマは現実的で重要な問題であるにも関わらず、医学部教育ではあまり話題に上らないようなことが多く、大変興味深かった。

実際の医療の現場では、何が善で何が悪であるかを判断するのが困難な状況が多々あると思う。今回のセミナーでも明確な解答が用意されていないテーマについて討論したが、いろいろな立場の方の考えを踏まえ、自分達の力で徹底的に考えるということが重要であるし、またそういう視点が実際の現場で求められているのだと感じた。

社会医学の第一線で活躍されている先生方や社会医学に興味を持った学生と過ごす時間はとても充実していた。また是非参加したいと思う。(5 年生)

講演では、医系技官は何をするのか、ヤコブ病はどのような病気なのか、など、沢山の具体的な知識を得ることができました。発表とその準備では、グループで自殺対策についてデータを用いて考察しました。話し合いながら考えることで、社会医学とは、患者さん1人と向き合う医療ではなく、地域の中の多数の人々に対する医療なのだとわかりました。

私は 1 年生で、まだ医学の知識はほとんどありませんでしたが、多くのことを学ぶことができました。これから医学を学ぶ上で役立てたいと思っています。(1 年生)

社会医学とは多くの人が閉塞感を覚えている「生きづらい社会」を、医学に片方の足を置きつつ記述・分析・考察する学問であり、得られた成果をより「生きよい社会」を目指して社会に還元することができる学問領域であることを学びました。これまで科学に価値観を持ち込んではいけないことになっているような先入観がありましたが、社会医学に取り組むときに、価値や倫理を持ち込んでよいのだ、ということを知ったのが最大の収穫です。とりあえずロールズの著書に取り組んでみたいと思います。(5 年生)

社会医学セミナーに参加して本当に良かったと思います。昼間は全国から集まった同年代と講義を元に感じたことを率直に意見交換し合い、夜は普段講演でしかお会いすることのない著名な先生方とリラックスした雰囲気で学業から人生まで幅広く語り合うことが出来ました。自分の中の社会医学の認識を見つめ直すつもりで参加しましたが、社会医学の面白さ・深さを知ると共に大学教員・研究者という職業に惹かれる 2 泊 3 日となりました。セミナー実現のために募金して下さった全国の公衆衛生の先生方、主催者の山梨大学の先生方を始め、お会いした全ての方に感謝致します。貴重な経験をありがとうございました。(大学院生)

今回のセミナーは 1 時間の中で講義にディスカッション、発表とかなり 1 コマ 1 コマ内容の濃いものでした。短

いディスカッションタイムにも関わらず班員それぞれが異なる視点で意見を交換し合い、最終的に1つのメッセージとして発表するという作業を繰り返すうちに社会医学という大きな領域の発展には様々な知識、考えを持った人々との意見交換が必須であると実感しました。

医学をバックグラウンドに持たずに今回のセミナーに参加した私にとっては医学という幅広い分野の担い手である医師や医師の卵の方々の視点が刺激になったし、また逆にコメディカルとしての私の経験が医学をバックグランドに持つ方にとって新鮮なものとなったかもしれません。非常に貴重な経験となりました。(大学院生)

社会と関わって生きる人々をとらえ、問題解決を図る社会医学において、多分野の人が関わり合うことは不可欠であり、そのギャップを埋める作業が重要であることを本セミナーを通じて実感した。殊に今回のテーマが「架橋領域」でなく「領域架橋」であったのは、最初から繋がっているわけではなく、領域間を「繋げる」という動的な意味合いが含まれていたのではないだろうか。そのために人を説得するための evidence が必要であり、それを伝える communication が必要であり、ともすれば理責めの冷たい印象を受けるが、実際領域を架橋する根底は「社会全体の幸福」を願う気持ちであり、その意味でとても温かい医学だと感じた。(卒後2年目)

今回初めて社会医学セミナーに参加して、本当に社会医学の多岐にわたる奥深さを学んだ。私にとって「社会医学」とは今だけでなく未来を見据えた学問であり、「"あたりまえのこと(生活)"が"あたりまえである"こと」を未来永劫に渡って人々に提供することだと考える。生老病死という四大苦を乗り越える際に何度も"あたりまえ"の難しさを実感し克服したいと願うのである。先生方のお話を伺い、参加者との語らいは今後の糧となると考える。私も社会医学を様々な分野に広げ、社会医学の楽しさや素晴らしさを多くの人に伝えていきたい。このような素晴らしいセミナーを企画・運営して下さった多くの方々に感謝致します。本当に貴重な経験をありがとうございました。(大学院生)

今回はセミナーに参加させていただき本当にありがとうございました。緊張感でいっぱいでしたが、皆さんが暖かく迎え入れてくれたおかげで楽しく三日間を過ごさせていただきました。セミナーの感想ですが、難解ではありますが、興味深い内容を立派な講師の先生方に講演いただき本当に刺激になりました。特に、参加者がより深く参加でき、より深く考えるようにディスカッションとプレゼンテーがション組み入れられていたのは秀逸でした。一般的に、受身の受講がされがちなセミナーの中でわざわざ時間を割いていただいただけの意味合いは想像以上のものであったように感じました。来年も是非参加したいと考えております。よろしくお願いします。(4年生)

二泊三日という短い期間でしたが、社会医学というものについてあんなに考え、討論をしたのは医学部六年間で初めてのことでした。実際このセミナーには実習として参加させていただきましたが、得るものがたくさんありました。コミュニケーションをとることは得意な方ですが、あまり知らない知識や今まで考えたこともなかったことについて意見を言い合って話すことや、発表をすることにはじめかなり抵抗がありました。しかし、このセミナーで討論の回数を重ねるごとに少しずつでしたが皆の意見を聞き、意見を述べることが楽しくなりました。講義では授業とはまた違った形で参加ができ、興味を持って取り組むことができました。まだまだ社会医学については学ぶことがたくさんありますが、このセミナーに参加させていただいたのを良い機会にして、来年から研修医として、また一医師として医療に取り組みたいと思います。とても楽しく有意義な二泊三日でした。ありがとうございました。(6年生)

今回初めて社会医学サマーセミナーに参加させていただきましたが、まず他の大学の学生さんの積極性に驚

きました。班内での発言はもちろん、率先して発表や質問を行う姿を見て、私も見習わなければならないと思いました。最初は自分の意見を口に出して説明することや、みんなの意見を一つにまとめることにとても苦戦しましたが、3日間のセミナーを通じて少しはうまくできるようになったと思います。今年初めてなので今までの形式については存じ上げませんが、20分間の講演とディスカッション、発表というスタイルは聞くばかりの受身の講演とは違って新鮮で、学生の集中力も持続し、とてもよかったと思います。

また著名な先生方の講演はとても興味深いものばかりで、社会医学の役割、大切さ、おもしろさがよくわかりましたし、普段の大学生活ではできないとても貴重な経験ができました。ありがとうございました。(6年生)

働く人の健康から社会医学に関心を持つようになり、去年初めてサマーセミナーに参加し、今年は初期研修医ですが参加させていただきました。実際の臨床に身を置くようになると、去年のセミナーではすっと頭に入ってきたものがなかなか入ってこない印象がありました。「みんなが幸せになれるように」。元々、人は心身ともに健康でないと幸せになれないと思い医学の道を志した私にとって、この言葉が何度も先生方の講演の中で出てきたことがうれしくもあり、ほんとにそうなのかと疑ってしまったりもしました。ほんの4か月の経験ですが、臨床ではそう思っているだけでは解決できない問題がたくさんあり、そんな理想だけでやっていけないと感じてしまうからかもしれません。あきらめることなく、それを解決していくのが社会医学の役目なのではないかと感じました。セミナーで学んだこと、感じたことを今後の研修や将来に役立てていこうと思います。ありがとうございました。(卒後1年目)

今年も社会医学サマーセミナーに参加させていただきました。私にとってこの3日間は、暑い夏に吹いた、山の涼しく気持ちいい風のようでした。先生方の貴重なお話を聞けたことはもちろん、社会医学に興味を持つ多くの学生が集まり、議論できたことをとても嬉しく感じています。出会い、繋がりを大切に、そしてこれからの私が人の心に気持ちいい風を吹かせられるよう考えて行動していきたいと思いました。

最後になってしまいましたがこの機会を与えてくださった先生方、関係者の方々に改めてお礼を言わせていただきたいです。セミナーに参加できて本当によかったと感じています。ありがとうございました。(卒後1年目)

社会医学セミナーを通して感じたのは医学を修めた人には社会にアプローチする様々な方法があるのだということです。臨床医、研究、行政、教育、国際機関で働くなどそれこそ多様な働き方がありますが、どれにしても結局は社会のニーズを的確に把握するということが一番大事だということを痛感しました。また、社会で起こる医療問題に対しマンパワーや資金、時間の制限の中で試行錯誤して問題解決を図る難しさと面白さを感じることができました。今回お世話になった先生方や参加した学生との出会いは大きな財産になると思います。(4年生)

今回社会医学サマーセミナーに参加することができて、とても良い経験をすることができたと思う。その理由は2つある。

まず初めに、7つのセミナーや特別講演で先生方の貴重なお話を聞くことができ、とても勉強になった。普段大学で勉強する内容とは違い、講演のあとのディスカッションがしやすいようなテーマや内容だったりしたので、ディスカッションでも活発な議論ができた。

2つめは、他大学の学生と2泊3日間衣食住をともにし、交流や議論ができたことである。様々な考えを持った人がおり、良い刺激を受けることができたと思う。

このような素晴らしいセミナーに参加でき、世話人の先生方にとても感謝している。(5年生)

私が今回のセミナーで一番印象に残っている言葉は「小医は病を医す。中医は人を医す。大医は国を医す。」という言葉です。小医・中医・大医の全てを兼備しなければいけない社会医学者の存在は貴重であることがよく理解できました。全世界が豊かになっていくためには社会医学的なアプローチが各分野で必要になることがわかり、社会医学の重要性を学ぶことができたと思います。これからは常に変わっていく社会に対しても柔軟な対応ができるよう、そして私たちができる仕事の役割を常に考える姿勢を持っていたいと思います。(5 年生)

私は、今回初めて社会医学サマーセミナーに参加しました。セミナーでは著名な先生方から実際の活動を聴講し、また、学生同士でディスカッションすることで、社会医学の役割や今まで感じていた疑問等について深く考察するきっかけを得ることが出来ました。また、今回ご講義頂いた諸先生方や各大学の学生とのネットワークも広がり、非常に収穫の多いセミナーとなりました。そして、セミナーを通じて、社会医学などコミュニティを対象とした研究の、その難しさと奥深さを実感すると同時に、興味と関心を高めることが出来ました。

最後に、諸先生方をはじめスタッフの方々には本当にお世話になりました。ありがとうございました。(大学院生)

近くでの開催ということもあり、気軽に参加させていただきました。しかし、この分野での著名な先生方の話はどれも非常に有意義で、なおかつディスカッションでお互いの考えを交流し合えることが、自らの視野を広げるのに役に立ちました。

特に、興味を持ったのは高野先生の国際保健と、本橋先生の自殺対策の二つで、「本当に必要な国際貢献とは？自国が苦しいのになぜ援助しなくてはならないのか？」「対策をどのように計画したか、そしてその計画をどう評価し、フィードバックしていくか」など、今まで触れることが少なかったことを学び、考えることができました。

このような機会を作ってくださったことに感謝しています。ありがとうございました。(6 年生)

自分の参加動機は弱かったと思う。どんなものか知りたい程度であった。それは、まわりと話してみて少し温度差みたいなものも感じたからだ。しかし、その立場からでも十分に惹きつけられるものを見出せたことは、社会医学の魅力と考えている。自分が不勉強だというのもあるが、医学が担当している領域は広い。単純に臨床だけではないのだ。言葉では分かっていたことだが、医師としての道は多くの可能性を秘めていることを感じられた。交流会では、先生方の魅力をますます近くに感じられた。友人が増えたことも大きい。

とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。(5 年生)

社会医学セミナーには初参加でした。若い学年のころから社会医学や公衆衛生学に興味を持ち、活発に発言する学生の方々のお話を聞き非常に考えさせられました。私自身は現在、臨床現場の末端におりますが、日々の生活の中で視野をいつの間にか狭めていたことにも気づかされました。講師の先生方のお話からは臨床に深く関係があるにも関わらず、そう思っていないと見落としてしまうものが多数あるという危機感を頂きました。この先どんな進路を選択したとしても、今回のセミナーで得た視点を活かしたいと思います。

講師の先生方、ならびにご企画くださった山梨大学医学部社会医学講座の皆様方に改めて御礼を申し上げます。(卒後 2 年目)

一言で言えば「社会医学は領域のない学問だ！」これに尽きると思います。疫学は然り、経済学も立派に社会医学たるのだと実感しました。今回の Keyword は領域架橋でしたが先生方の様々な分野の問題をそれぞれ

色々な方法を用いて approach しようとしている話を聞くことで自然に頷くことができました。

これからの世の中、生活の問題は医療、介護、行政を含んだ地域のネットワーク、そこに個々人の経済問題が複雑に絡んでいると思います。高齢社会における医療、介護の融合はもちろん、従来の構造が消滅してしまったために地域に積極的に新たなネットワークを作り直すか(積極的)、新しくできた従来の接続範囲を無視した小範囲の新しいつながりを上手く使うか、上限と下限が大きく開いてしまった個人の経済状況をどうフォローするかが重要だと思います。また、視点を国内にとどめておく必要はなく海外にも向けても良いことも僕には新しいことでした。

社会医学だけではない、他のどの分野(もちろん医学も含む)も今までの枠を超えて色々な他分野を巻き込んで考えることがこれからは必要ではないかと、考えさせてくれた3日間でした。ありがとうございました。(´▽`)=3(4年生)

今回セミナーに参加させていただき、社会医学が、社会における健康被害や疾病予防などの課題に対して医学的な知識・技術を駆使してより良い環境を目指していく学問分野であるということを学びました。

また、この様な課題を解決するためには個人、地域と、様々な分野における専門家の協力が不可欠であり、架橋される領域は解決すべき課題に応じて多様であるように感じましたが、医師としての立場からは、様々な因子と健康との因果関係を研究すること、効果的な介入方法を研究すること、介入による効果を評価すること等に率先して取り組むことが重要な役割であるように感じました。(6年生)

「日本古来の共同体が崩壊し、共通の価値観のなくなった社会で、社会医学に変革が求められている反面、感染症対策や保健の分野では人類を平等に、包括的にサポートし続けていかなければならない。」3日間のセミナーを通して出した自分なりの結論です。

今回の社会医学セミナーでは、熱い志を持って社会と医療との接点を模索する学生や、社会医学や医療行政の第一線で活躍されている先生方と出会え、とても有意義な時間が過ごせました。限られた時間で明確な結論は出せなかったものの、グループディスカッションでお互いの意見をぶつけ合うことで、さまざまな切り口から自殺予防対策、国際援助などの医療トピックを見つめることができました。

このような貴重な機会を作ってくださった衛生学公衆衛生学教育協議会の先生方、山梨大学のスタッフの方々に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。(2年生)

私が今回社会医学セミナーに参加させていただき、他大学の先生方や学生との交流を通して感じたのは、“何が大切か”を考える力を養っていかなければならない、ということでした。昨今、医師不足問題、地域医療の崩壊など日本の医療界が改善していかなければならない問題は鬱積しているように思います。今回のセミナーでも社会と医学の間にはまだまだ大きな溝があるように感じました。その中にあって少しずつでも問題を改善していくためには、多大な労力と時間は要すると思いますが、地域や小さなコミュニティーからでも積極的に問題に取り組んでいくべきなのでは、と自分は感じました。また、現在直面する難題に問題意識を持っている先生方や学生が少なからずいるということを知れただけでも自分にとっては大きな収穫でした。このような機会を与えてくださった山梨大学の先生方、並びに関係者の皆様には深く感謝したいと思います。ありがとうございました。(1年生)

社会医学サマーセミナーに参加させていただきありがとうございました。たくさんの先生方に講演をしていただきましたが、私が最も印象に残ったのは本橋先生による自殺対策についてのレクチャーでした。討論の際には、

なぜ自殺対策が必要か、という点についてグループで話し合ったのですが、後付け感がどうも拭いきれずどれもしっくりきませんでした。しかし先生が「正義をかかげることの正しさ」について話してくださり、すんなりと納得できたような気がします。また、今回は山梨県での開催ということで富士登山ができたことも大変貴重な体験となりました。機会があればまた参加させていただきたいと思います。3 日間本当にありがとうございました。(4 年生)

今回のテーマは「領域架橋する社会医学」。講義やディスカッションを通じて様々な社会医学領域について考えさせられました。どれも示唆深い内容で社会医学の役割について考えさせられましたが、何よりも有意義だったのは一線で研究をなさっている先生方と参加者学生が同じ目線に立って、医学と社会の関わりについて長時間議論させて頂いたことでした。それが私には大きな「領域架橋」の実験のように感じられ、先生方の社会に対する熱い眼差しを共有させて頂いたように思います。また医学と社会との接点について議論する多くの友人と知り合うことができ、本当に有意義なセミナーだったと思います。本当に貴重な体験をありがとうございました。(2 年生)

とても頭を使った三日間でした。社会医学という分野の第一線で活躍しておられる先生方のレクチャーを聞き、そのたびにグループのメンバーとディスカッションをし、発表し、他のグループの発表を聞くという一連の流れは、学校ではなかなか経験できないことでした。しかし、ただ聞くだけではなく、こういった作業により、さらに理解を深めることができた。もちろん先生方のレクチャーはどれも現在問題になっているトピックを取り上げていて、一緒に考えよう、という問題提起の仕方が非常に興味深かった。社会医学とはどれも答えがないような問題ばかりで、どのように全体でコンセンサスを作っていくかが重要なのではないかと感じた。(4 年生)

わくわくするとはまさにこのことでした。今回初めて社会医学セミナーに参加させていただきましたが、正直に申しますと始まるまではよく分からないこのセミナーへ期待とともに不安がありました。ですがいざ始まってみると普段の医学部の授業とは大きく違った内容、形式のプログラムで、新鮮さもあり夢中になってしまいました。特に、20 分でインプットして 20 分後には何かをアウトプットする、というグループディスカッション形式をとっていたのに感動し、そういうことができるのも単なる技術職ではない社会医学という分野の方々のおかげかな、と思いました。開催していただいた山梨大の諸先生や、維持してくださっている教育協議会への皆様に感謝したいと思います。(5 年生)

私は今回のセミナーで 3 回目の参加になるのですが、今回も非常に濃密で有意義な 3 日間を過ごすことができました。3 日という短い時間の中で学んだことは多くありますが、他の参加者や第一線で社会医学を牽引している先生方と出会いお話することができたことが何物にも代え難い貴重な経験となりました。特に発表の為に班員と過ごした時間は、社会医学の担う役割についてこれまでになく真剣に向き合う良い機会となりましたし、何よりも皆と本音で語り合うことができたことで、とても大きな刺激を受けることができました。そのような中で、限られた時間でどたばたとまとめた割には、最終的に納得のできる発表ができたのではないかと思っております。

最後になりましたが、今回世話人の山縣教授をはじめとしたセミナー運営にご尽力くださった山梨大学の先生方、そして講師として参加してくださった諸先生方には大変にお世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。(5 年生)

今回の社会医学サマーセミナーを終えて、予防医学や健康管理活動にますます興味を抱くことができました。医療の現場では、多職種が関わり合い、患者さんの退院後の生活環境を調整することがますます重要視されて

くると思います。多職種が関わり合う社会全体を一つの生命体とみなしていくためにも、今回のテーマにもある「領域架橋」の概念が必要なのだと感じています。社会医学分野に期待することができる分野・テーマがたくさんあることに気付くことができたセミナーであったと思います。ありがとうございました。(5 年生)

他大学の医学生との交流や、ディスカッションを通し、社会医学とは何かを十分に考える濃い時間を与えていただいたと感じました。先生方のお話を聞くだけではなく、先生のお話を聞いた後、学生同士のディスカッションという形式によって、問題の難しさを実感し、他の人の意見を聞くことで、自分の考え方以外の考え方にふれ、そんな考えがあるのかと、目からうろこでした。また、懇親会では、様々なお話をお伺いするという貴重な時間をいただき、社会医学への関心がさらに強まりました。来年も社会医学サマーセミナーに参加したいと思いました。(3 年生)

今回のセミナーには質量ともに大変満足しています。社会医学が扱う分野が多岐に亘っているということ、これからの日本の医療にとって非常に重要かつ重点的に進めていく必要のある分野であるというように理解しました。また各分野の第一人者である先生方の講演を拝聴した後にディスカッション、グループ発表という形式は最初圧倒されましたが、慣れるにつれてとても有意義なものとなりました。このセミナーに尽力下さった先生方には非常に感謝しています。ありがとうございました。この経験を今後に活かせるよう努力していきます。(3 年生)

私は今回初めてセミナーに参加させていただきましたが、普段の講義では聴くことができない講義を聴くことができただけでなく、全国の医大生や大学院生の方と討論をしあうことができて、良い影響を受けることが出来たように感じました。

サマーセミナーへ行く前は社会医学とは何かと問われてもあいまいに返答することしかできませんでしたが、セミナーを受けて、“社会医学”とは基礎医学と臨床医学の架橋であると同時に、予防医学や公衆衛生、疫学などへの人々のニーズに対してどのようにアプローチすることができるのかを考える学問、つまり国際社会全体が安心して生活を営むことが出来るような環境を、医療技術や知識を導入して整えようとする学問であると考えるようになりました。

この3日間で知り合うことができた仲間たちを見習い、より勉学に努めたいと思います。(3 年生)

公衆衛生学講座の大学院生として日々過ごしているため、社会医学とは何か、その役割は何なのかという根本的なところにあまり疑問を持たず、自分なりに理解できていると感じていました。しかし、講師の先生方の多岐にわたる分野の講義や、様々な学年、立場の方々とのディスカッションを通じて、“社会医学”が非常に広い分野であり、様々な学問分野に関わっているということ、そして“社会”という要素を含んでいるからこそ、より複雑な問題と向き合わなくてはならないということを実感しました。今後は自分の研究分野と関わる機会が増えてきますが、常に広い視野で考えることを心がけていきたいと考えています。(大学院生)

初めての社会医学サマーセミナーで，私はとても充実した時間を過ごすことができた。何より良かったのは，他大学の学生と接し，意見を交わすことができたことだ。それはやはり，先生方が私たちにグループワークという時間を与えてくれたからだと思う。普段何気なく過ごしている中では気づくことのできないような議題を与えていただき，限られた時間の中で頭をフル回転させて意見を出し合い，様々なことを学び，感じることができた。一緒に3日間を過ごした皆さん，そして私達にこのような学びの場を与えてくださりとても親切にして下さった先生方に感謝しています。(3 年生)

セミナーを終えて－講師陣の感想－(順不同)

本年度のセミナーは、社会医学の様々なテーマについて、専門の講師の先生がレクチャーと問題提起をし、そのつど、参加者がグループディスカッションを行い結果を発表するという方法で行われました。この手法の成果の集約をたのしみに致しております。いつも思うことですが、今回も、いままでと同様、社会医学分野における一流の方々に講師として御参加いただけたことで、セミナーの雰囲気を自然にひきしめ、和気藹々のなかにも、質の高い内容を確保できたものと思います。また、富士山の雄大な景色もセミナーの雰囲気を浩然たるものにしてくれたように思います。

今回のセミナーを主管された山梨大学山縣然太朗教授をはじめ関係各位の方々に、また、講師をおつとめ頂いた協議会の各大学の教授の先生方、御支援をいただきました厚生労働省大臣官房厚生科学課の平子哲夫課長補佐、山梨県福祉保健部健康増進課の荒木裕人課長に、厚く御礼を申し上げます。

本セミナーでは「時代推移」と「教育的接近」について話をさせていただきました。教育をテーマに社会医学を語ろうとすると、私が専門とする健康教育の話題はもちろんですが、「かって、どのような思いで社会医学を学び始め、現在に至っているのか」の話題も、避けて通るわけには行きません。

大学紛争の時代、紙テープの計算機を使っていた時代、世界が資本主義と社会主義の二大陣営に分かれていた時代、国内に目を転じれは、終身雇用制の学歴社会、人口ピラミッドはまだ二等辺三角形の形状を残す一方で、老人保健も介護保険もヘルスプロモーションも基本的考え方がまだ形成の途上にあった時代、そのような時代に公衆衛生学を学び始められたのは、幸運と言えるかもしれません。

あれから30年、21世紀の現在、二大陣営が消失し大規模戦争の可能性が減った一方でテロが日常化した時代、地球環境が壊れ始めている時代、国内に目を転じれば終身雇用も学生のデモも失われた時代、未婚や離婚が目立つ時代、子どもが減り高齢者が増えた時代、そのような時代の只中で、医学生の皆さんに、「この複雑な時代の正体」と「人類の幸福を導くはずの公衆衛生学の未来」を、やや曖昧な形でしか示せないのは、多少困ったことなのかもしれません。そんなことを語りつつ、問題提起とさせていただきました。

「流動化し、個人化しつつある現代の社会に、学生の皆さんはどう対処しますか」と、私自身にも答えの見えない課題を問いかけて、15分間の話を締めくくりました。多少意外だったのは、私の主観的な時代認識を、どの班の皆さんからも、肯定していただけたことです。夜の懇親会では「自由のゆえに不安で落ち着かない」今の医学生をめぐる状況について、さらに話し合うことができました。

皆さんと社会医学の意味を語り合う、このような機会をいただき、心から感謝しております。

第14回にして、初めて参加しました。最終日はトラブルで残念ながら富士登山はできませんでしたが、有意義な3日間を過ごすことができました。

ある程度は予想していましたが、意識や社会医学に対する知識・認識には参加者間で大きな差がありました。特に、知識不足・認識不足で他の参加者と比較して，ある種の劣等感を感じた人がいたら、「そんな必要はないよ」と言いたい。学生時代には1つのことに限定せずに、幅広い知識と認識を持つことが、将来何をやるにしても、これが肥やしになることは間違いありません。今、社会医学に関して少し少なくても、その分別の分野で勝っているとすれば、それはそれで結構なことです。その上で将来、社会医学を目指してくれれば、チューターとしては望外の喜びです。

個人的な事情で二日目の昼前に中途退席してしまった。最終日の富士山登頂に参加できず心残りではあっ

たが、楽しく有意義な時間を過ごせたように思う。今回は、前回の奈良の経験も考慮されたのであろう、グループワークに重点がおかれていた。話題盛りだくさんで、提起された課題も「やわ」なものでもなかったため、参加者にとってはハードだったかも知れない。社会医学に興味を持つ初心者との出会いと、大先輩の稲葉先生をはじめ、山縣先生が指名された先生方から、なぜ「今の社会医学を選んだのか」という話を聞くことができたのは、個人的には当日仰ぎ見た富士山のごとく爽やかであった。

社会医学系(衛生学)の講座にいる縁で山縣先生にお声をかけていただき、サマーセミナーに初めて参加させていただきました. 富士の裾野での泊まり込みでの合宿は、好天も手伝って、日頃山梨に住んでいる者にとっても良い思い出になりました。

知識よりもものの考え方の修得に重点をおいたプログラム、熱気あふれる学生と教員のディスカッション、社会医学(公衆衛生)や厚労省の先生方の新鮮な考え方、さらにセッションを経るごとに学生さんが次第に能動的になっていく姿、を目の当たりにして感銘を受け続けたセミナーでした。

終了後、東京の大学の学生さんからメールをいただきました。「基礎・臨床・社会の3つの医学分野の関係」すなわち「医学における社会医学の位置づけ」に関する質問でした。臨床の現場や基礎研究を経験してから衛生学に入った者としては、社会医学の役割は「基礎と臨床の橋渡し」であり、その役割は、他の2分野以上に、「時代や社会情勢で変っていくもの、変っていかなければならないもの」と考えています。

末筆ながら、本セミナーの益々のご発展と、参加された学生の皆さんがこのセミナーで得たものを胸に抱いて大きく羽ばたかれることを、お祈り致します。

今年も医学生達が社会医学への熱い想いを語る社会医学サマーセミナーが開催されました。山梨大学の山縣教授のお世話で開かれた今回のセミナーは、雄大な富士山を望むことができる研修センターで行われました。日本一の富士山を眺めながら、社会医学の将来を語ることができたのは誠にすばらしいものでした。まずは、セミナーを準備された山縣教授とスタッフの先生方に厚く御礼申し上げたいと思います。私は講師として秋田県の自殺対策の話をしましたが、講義よりは参加者同士の討議を重視するという今回の方針に沿って、提起した問題を学生さん達と語り合うことに努めました。双方向性の討議を重視した今回のセミナーは学生さん達にとっても公表だったのではないでしょうか。とても良い雰囲気で討議がなされたと私は感じました。短い参加でしたが、すがすがしい気持ちで帰路につくことができました。

遺伝疫学研究と予防への応用についてお話させていただきました。また、グループワークでは、遺伝子検査の倫理的課題について考えていただきました。セミナー全体の印象として、レクチャー後の短時間のグループワークにより、学生達がより能動的に関わることができたのではないかと思います。私自身はこのような形態のレクチャーは初めて経験しましたが、成功していたと思います。大変参考になりました。

最終日の各学生グループのプレゼンテーション、大変興味深かったです。スケジュールの合間の短い時間を利用してまとめるのは大変だったと思いますが、どのグループもしっかりした考察を行っていて大変頼もしく感じました。

セミナー会場からの美しい富士山の姿や富士5合目からの富士山の雄姿が今でも目に焼き付いています。御尽力くださった山梨大学のスタッフの皆様に心より感謝申し上げます。

山縣教授を初め、山梨大学の事務局の方々に大変お世話になりました。
金曜日の夕方から日曜日朝までの部分参加でしたが、参加学生の熱心な討議に将来の日本の社会医学にも

希望が持てる気がしてきました。

日本住血吸虫の古いビデオと横山医師の講演から、1970 年代の若かりし頃の研究をあらためて思い出していました。ひとりで車を運転しながら、保健所、役場、病院、研究所などを訪問して疫学調査をしたことが、つい最近のように思えました。今では個人情報保護の観点からかなり難しいだろうと思える調査です。今もまだこの病気の後遺症に苦しまれている方はいるので、さっさと引退して手を引いてしまっているのが申し訳なく思えます。
次の世代へのバトンタッチの難しい課題ですが、そんな感想を持ちました。

でも、新しい社会医学へのチャレンジをされる若者たちに期待しています。

地方病の話など、もうさせて頂く場はないと思っておりましたのに、今回は素晴らしい機会を頂きまして、有り難うございました。恐らくは、私の人生の最終章を飾る思い出の一つになるのではと、感謝しております。

会場の皆様には拙い話を大変ご熱心に傾聴してくだされ、短い時間内に各グループ毎に討議されて貴重な感想や適切な質問を頂き、さすがは優秀な方々の集会と感銘しました。

セミナーは心に残る景勝の地で、内容も濃く大変ユニークな企画運営をされました先生方に敬意を表するとともに、座長の労をおとり頂きました稲葉先生に心から謝意を表します。

今年の夏は全国に誇る富士山麓の避暑地で、刺激的な一日を過ごすことが出来ました。お盆の時期にもかかわらず、全国の公衆衛生、社会医学の第一線の先生方が集い、タイムリーな話題、最新の研究成果の提供を頂いたこと、そして何よりも次世代を担うやる気あふれる医学生の熱気あふれる討論が、私自身にとっても刺激剤として注入されたように感じました。山縣先生を始めとする梨大の先生方の温かいホストぶりに感銘を受けた医学生の皆さんが、来年の再会と将来の社会医学の発展に寄与することを願ってやみません。

第14回社会医学サマーセミナー参加者名簿

グループ	氏名	氏名ふりがな	性別	所属大学	学年
1	黒崎 剛史	くろさき たけし	男	東邦大学	1
1	河原 真木子	かわはら まきこ	女	獨協医科大学	3
1	門脇 加奈子	かどわき かなこ	女	山梨大学	4
1	長沼 透	ながぬま とおる	男	東北大学	5
1	大渕 雪栄	おおふち ゆきえ	女	埼玉医科大学総合医療センター（山梨大学 2007年卒）	初期研修医
1	中島 理恵	なかじま りえ	女	東京医科歯科大学	大学院生
2	力武 崇之	りきたけ たかゆき	男	東邦大学	2
2	安藝 裕子	あき ゆうこ	女	福井大学	3
2	宇井 あかね	うい あかね	女	東北大学	4
2	高井 基央	たかい もとひさ	男	東京医科歯科大学	5
2	荒木 孝太	あらき こうた	男	山梨大学	6
2	山崎 政美	やまざき まさみ	女	金沢大学 2008年卒	初期研修医
2	森田 彩子	もりた あやこ	女	東京医科歯科大学	大学院生
3	廣瀬 貴美	ひろせ たかみ	女	福井大学	3
3	井上 裕次郎	いのうえ ゆうじろう	男	近畿大学	4
3	中村 菜美子	なかむら なみこ	女	佐賀大学	5
3	井関 隼	いせき はやと	男	埼玉医科大学	5
3	平澤 卓	ひらさわ すぐる	男	山梨大学	6
3	下園 美保子	しもぞの みほこ	女	山梨大学大学院	大学院生
4	中村 枝美子	なかむら えみこ	女	獨協医科大学	2
4	田中 裕也	たなか ゆうや	男	山梨大学	4
4	宮坂 大悟	みやさか だいご	男	富山大学	5
4	田原 大地	たばら だいち	男	旭川医科大学	5
4	松崎 薫	まつざき かおる	女	東京医科歯科大学	5
4	内村 麻里	うちむら まり	女	東京医科歯科大学	大学院生
5	古川 恵美	ふるかわ えみ	女	東邦大学	2
5	細山 直人	ほそやま なおと	男	高知大学	4
5	川内 孝次郎	かわち こうじろう	男	山梨大学	5
5	大鳥 美佳	おおとり みか	女	近畿大学	6
5	高橋 賢伍	たかはし けんご	男	旭川医科大学	6
5	齋藤 智子	さいとう ともこ	女	福島県立医科大学	大学院生
6	久野 賀子	くの よしこ	女	東京医科歯科大学	1
6	中西 陽祐	なかにし ようすけ	男	福井大学	3
6	渡辺 康弘	わたなべ やすひろ	男	東邦大学	4
6	増田 美生	ますだ みお	女	近畿大学	6
6	辻 敦美	つじ あつみ	女	東京医科歯科大学2007年卒業	初期研修医
6	朝倉 大貴	あさくら ひろき	男	金沢大学環境生態医学教室	卒後1年目

第 14 回社会医学サマーセミナー講師・事務局スタッフ

セミナー講師・Facilitator

高野　健人	教授	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究所　健康推進医学分野
中村　好一	教授	自治医科大学　公衆衛生学部門
車谷　典男	教授	奈良県立医科大学 地域健康医学
竹下　達也	教授	和歌山県立医科大学医学部 公衆衛生学
本橋　豊	教授	秋田大学医学部　社会環境医学講座 健康増進医学分野
守山　正樹	教授	福岡大学医学部　公衆衛生学
稲葉　裕	教授	実践女子大学　生活科学部食生活科学科 公衆衛生学研究室 (順天堂大学医学部　衛生学)
久保田　健夫	教授	山梨大学医学部　環境遺伝医学講座
平子　哲夫		厚生労働省　医系技官
荒木　裕人		厚生労働省　医系技官
山縣　然太朗	教授	山梨大学医学部　社会医学講座 (第14回社会医学サマーセミナー世話人)

特別講師

横山　宏	理事長	恵信甲府病院

セミナー事務局

渡辺　雅史	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究所　健康推進医学分野
木津喜　雅	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究所　健康推進医学分野
田中　太一郎	山梨大学医学部　社会医学講座
安藤　大輔	山梨大学医学部　社会医学講座
鈴木　孝太	山梨大学医学部　社会医学講座
安達　麻衣子	山梨大学医学部　社会医学講座

サマーセミナー
当日資料

第14回 全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会 主催
SUMER SEMINAR in YAMANASHI

社会医学サマーセミナー

主　題　「領域架橋における社会医学の役割を学ぶ」

日　時　2008年8月15日(金)14時から同17日(日)11時半(2泊3日)

会　場　富士Calm(人材開発センター富士研修所) http://www.nikkeirem.or.jp/fujiken/ 山梨県富士吉田市新屋1400

□代表世話人：東京医科歯科大学 高野健人 / □第14回世話人：山梨大学医学部 山縣然太朗

対　象　社会医学に関心のある医学科学生と大学院生(計40名程度)

内　容

1. 社会医学分野の専門家による講演と討論(講師4名程度)
   社会のあらゆる分野の課題解決のための社会医学の役割を専門家に講演してもらい、参加者と討論する。
2. 厚生労働省医系技官の特別講演
   厚生労働行政の現状と課題、そして医系技官の使命についての講演を受ける。
3. グループ討議と発表(チューター8名程度)
   課題は「社会医学の役割」と「社会医学への期待」。
4. 特別講義
   日本住血吸虫病の克服:「水腹張病茶碗のかけら」の上映と特別講演
5. Study Tour:高地における身体機能について学ぶために富士山5号目に登る。
6. その他:懇親会等々
   先達はなぜ社会医学を志したかを語ってもらえず、
   社会医学の楽しみ・面白さを参加者と語り合う。

申込方法:第14回社会医学サマーセミナー連絡先(下記参照)まで、
E-メールで下記必要事項を送付のこと。

1. 氏名(ふりがな)・性別
2. 連絡先(住所・電話番号・E-メールアドレス)
3. 所属大学・学年
4. 過去の社会医学サマーセミナー参加歴
5. 応募理由(200字程度)

参加費:無料(会場までの往復交通費は自己負担・大学院生の場合は宿泊費用の実費を自己負担)
申込締切:5月末日
抽選発表:6月上旬

連絡先　山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座　山縣然太朗、鈴木孝太
〒409-3898 山梨県中央市下河東 1110 電話 055-273-9566 / ファックス 055-273-7882 / Email：socmed@med.yamanashi.ac.jp

URL http:///www.med.yamanashi.ac.jp/social/heal0sci/socmed.html

衛生学公衆衛生学教育協議会　第14回社会医学サマーセミナーあいさつ

高野健人　衛生学公衆衛生学教育協議会代表世話人
東京医科歯科大学大学院　健康推進医学　教授

みなさんこんにちは。東京医科歯科大学の高野です。全国から参加してくれた学生諸君に、また今回御参加の各大学の先生方、厚生労働省の医系技官の先生方、とりわけ山梨大学山縣教授をはじめ本会開催に御尽力賜りました方々に、この場をおかりして心からの御礼を申し上げます。

この会は、全国機関衛生学公衆衛生学教育協議会が開催するものです。教育協議会とは、全国の医系の大学の衛生学や公衆衛生学などの関係教室の教授、現在約 200 名ですが、メンバーになっています。

普通こうしたあいさつは形式的になりがちですが、この社会医学サマーセミナーでは、そういうことはありません。まず第一に、私は責任上、全国の大学の約 200 人にものぼる社会医学の先生方のこの３日間の社会医学セミナーにかける熱意と多大な経済的なご支援を皆さんに伝えなければいけないからです。また、厚生労働省におかれましても、このセミナーを大いに応援していただいており、我々一同、大変心強く思っておりますので、この点につきましても、この場をおかりしてお伝えしなければならないことです。

それでは、どうして、そんなに多くの全国の先生方が、このセミナーの開催に手弁当で来られたり、来られないまでも親身に種々の、多くのバックアップをしてくれるのでしょうか。その理由こそが、このセミナーの意義の深さと重要性を指し示していると私は思います。それを３段階にまとめて簡潔にお話しします。

それは、まず第一に、近年、医学・医療をとりまく社会の状況が大きく変わり、急速に変化しているということです。医療制度も変化しています。あるいは、介護や老人福祉の問題はかつては福祉の一分野でありましたが、この数年、様々に発展し、いまや医療と介護、福祉などの分野は別々に考えることができません。社会医学の視野と責任と活動は新しく広がりました。食やエネルギー、資源の問題も含め、国際環境もめまぐるしく変わっています。国際的な公衆衛生において日本の公衆衛生の役割がますます大きくなっています。つまり、社会医学の必要性がますます大きくなっているということであります。このことを医学生や医系大学院生に是非わかってほしいという願いです。社会の変化を肌で感じて、それにこたえる社会医学を考えてもらいたいのです。

第二点目はどういうことかというと、しかしながら、皆さん方が、皆さんが学ぶ医学部・医科大学でそういう情報を聞いたり、充分に教育が受けられるかというと、そういう機会が大変少ないということです。大学自体も変革のなかにあり、全国的傾向として、個々の大学の中では社会医学の教室や科目は少なくなっています。先生方が皆さんに会う時間すら少なくなっている状況です。実態として、思う存分社会医学を学ぶ機会が少ないのが現状です。ですから、せっかく社会医学に興味を感じる学生さんがいても、その大学の中で閉じこもっている限り、その重要性に自信が持てない、その方向性を現実に検討できないということも、ままあります。現在の医学教育プログラムは、多くの科目を教育することになっていて、つめこみと試験の連続の中で、社会医学の意義を知る機会がみつけにくくなっています。また、社会医学は○×の試験になじまないということから、大学での教育